

## 小学校外国語における Answer-Add-Ask の型を使った Small Talk 指導のシステム開発と実践

大野恵理 (三重大学 教育学部 特任教授)

## I. 研究の背景

小学校外国語(高学年)の授業において、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする活動を **Small Talk (スモールトーク)** と呼び、2 時間に 1 回程度実施することが、『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(文部科学省, 2017) で推奨されている。研究者(大野)は、2017 年より三重県南部地域の小学校の外国語教育支援を行う中で「**Small Talk の指導ができない**」「**Small Talk とは何?**」という教員の声を多く聞いた。

## II. 先行研究

Small Talk を小学校で取り扱うように推奨されたのが 2017 年度以降であるため、日本の小学校においては指導の歴史が浅く、研究があまり進んでいないのが現実である。数少ない先行研究では、児童の Small Talk に対する意識調査や、児童や教員の発話の分析が中心であり、指導者の Small Talk の具体例や、児童が Small Talk の内容を正しく理解できたのかは明らかにされていない。そこで、本研究では具体的な指導法を盛り込んだ小学生高学年向けの Small Talk 教材を開発・実践をし、指導効果を検証することにした。

## III. 研究の方法

本研究では、教育支援活動をより効果的・効率的にするため、インストラクショナルデザイン(ID)のモデルである **ADDIE (アディー) モデル** に沿って進めた。

1. 分析 (Analysis) : 既存の英会話教材を検証し、Small Talk に取り組みやすい **Answer-Add-Ask (略称 3A: トリプル・エイ)** のパターンで指導することにした。
  2. 設計 (Design) : 3A を使った Small Talk (表 3) のパイロット版動画を作成し、出前授業を実施した。動画は短く、1つの動画に対して1つの新出の学習内容、3Aの代わりに「**国旗ルール (こたえる・つかさずる・ききかえす)**」と呼ぶことにした。
  3. 開発 (Development) : 8本の短い動画を作成し、段階ごとに「**積み上げ式**」で学習し、最終的に長い Small Talk ができるようになる教材を開発した。1つの動画について **10分程度×6回の短時間 (モジュール) 学習**ができるように、**指導案 (略案)** も開発した。
- IV. 実施 (Implementation) 及び評価 (Evaluation) : 2022 年 9 月～2023 年 3 月に三重県南部地域の A 小学校 5 年生 (児童数 10) で、**出前授業を 10 回実施**して教材や指導法の効果検証を行った。
- V. 調査方法・結果及び考察
1. 児童パフォーマンステスト : 2022 年 2 学期～3 学期に 10 回指導した。2 学期末 (中間) 及び 3 学期末 (事後) にパフォーマンステストを実施した。中程度の学力の 2 名の児童を抽出し①研究者の支援を受けた回数、②「**国旗ルール**」に沿って自分の考えや気持ちを伝えることができたか等、分析した。2 名とも、研究者の支援回数が半分以上 (児童 G は 8→2 回、児童 H は 5→2 回) で Small Talk ができるようになった。**動画で「国旗ルール」を活用した Small Talk を学習すれば、自分の考えや気持ちを表現できるようになったと考えられる。**
  2. 児童の意識調査 : 2 回の児童アンケートの結果から、Small Talk についての質問 (例 : 話の内容が理解できた、追加する内容をすぐに思いついた等) に対して、3 学期に「**いいえ**」という回答が増えた。3 学期に学習がより進み、「**Small Talk について何が分からないか、分かるようになった**」と考えられる。
  3. 教員聞き取り調査 : 教員経験 2 年の専科教員 C は Small Talk の学習経験がなく、Small Talk について全く知らない状態であった。2022 年 2 学期に、研究者による出前授業 7 回を見て「**動画を使えば、私でも負担なく指導できる**」と感じ、2023 年 3 学期には本研究で開発された動画を活用して単独で 6 年生の Small Talk の指導をするようになった。

## VI. まとめと今後について

「**国旗ルール (こたえる・つかさずる・ききかえす)**」という具体的な指導法に基づいて作成された本研究の教材はウェブサイト (<https://ono.edu.mie-u.ac.jp/smalTalk.html>) で無料公開しており、日本全国どの学校でも教材を活用して Small Talk の指導をすることが可能であり、今後も教材を増やすとともに教材の普及や検証も続けていきたい。